

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ふっちいふぁみりいぶりん			
○保護者評価実施期間	R6年4月1日 ～ R7年3月31日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26名	(回答者数)	25名
○従業者評価実施期間	R6年4月1日 ～ R7年3月31日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12名	(回答者数)	12名
○事業者向け自己評価表作成日	R7年5月10日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの状況を保護者と伝え合い情報の共有、子供の健康や発達の状況について共通理解が出来る。	送迎時に直接保護者との情報共有を行っている中で保護者の質問等にも答えられる様に心掛けています。送迎時に伝えきれない情報や相談については電話連絡し対応しています。	引き続き送迎時や電話連絡を通して子どもの情報共有を行っていきます。いつでも相談出来る環境を整え面談も行えるよう対応します。
2	職員の配置数が多い。児童指導員・保育士・准看護師など福祉事業経験が5年以上の職員が療育にあたっている。	職員の配置を活かし個々に細やかな支援の対応が出来ています。子どもに担当職員を付け、その子のニーズに沿った支援が出来ています。	職員一人ひとりの気付きを職員全体の気付きとし次への支援と繋げていきます。
3	事業所の活動のプログラムが固定化されないよう工夫されている。	毎月、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士などの専門的な意見を取り入れ、固定化されない事を意識し、専門性を活かしたプログラムを立案・実施している。季節を感じられる様に戸外活動も取り入れている。	引き続き専門性を活かしたプログラムを実施していく中で子供の興味・関心に寄り沿った良いプログラムの立案・提供を行っていきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	非常災害の発生に備えて定期的に避難、救出その他必要な訓練について	取り組み自体は実施していますが全員参加は出来ていません。情報開示や伝え方など弱く保護者に正しく理解されていない部分が多い。	集団プログラムの実施回数や情報開示、情報伝達に力を入れ取り組んでいきます。
2			
3			